

アルゼンチンアリの生息状況モニタリング調査及び防除手法についての検討（第2報） ～冬季における防除について～

○山田由貴

1 はじめに

特定外来生物のアルゼンチンアリ (*Linepithema humile*) は、愛知県内においては、2005年に侵入が確認され、生態系や生活環境に影響を及ぼしている。侵入地では防除が行われているが、なかなか根絶に至っていない。

冬季はアルゼンチンアリの活動が鈍化し、一般的に行われている固形ベイト剤による防除の効果が発揮されにくい。本研究では、冬季における効果的な防除手法を検討し、2023年2月から4月まで、巣及び女王ア리를ターゲットとした集中的な防除を試行したので、その結果について報告する。

2 冬季防除の概要

冬季防除は、2015年にアルゼンチンアリの侵入が確認された東海市内で実施した。2023年2月にベイトトラップ調査で生息状況を確認し、生息範囲の端に位置し、生息範囲拡大の拠点となるおそれのある950㎡程度の区画を防除範囲とした。防除方法は、ベイトトラップによりアルゼンチンア리를誘引し、アリの行列をたどることで巣穴の場所を特定し、巣穴に液剤(有効成分:フィプロニル)を噴射した。働きアリ、女王アリの順に巣穴からの脱出が見られ、女王アリについては捕殺した。この作業を2月20日から4月5日までの間で6回繰り返した。

3 結果

冬季防除を行った範囲では、5月にはベイトトラップ調査でアルゼンチンアリが検出されなくなった。また、1年で最もアルゼンチンアリの個体数が多い秋季の調査において、本研究で調査をしている区域全体でのアルゼンチンアリの生息範囲が、昨年と比較して縮小した(検出箇所数の減少率36.3%)。さらに、防除範囲ではアルゼンチンアリが検出されなかった。これは、防除範囲内においては、初夏に羽化する新女王アリの発生を妨げることができたと考えられる。

このことから、この冬季防除の範囲を拡大することで、更なるアルゼンチンアリの生息範囲の縮小が期待できる。

表1 防除範囲内の分布の推移

日付	西		南									東
	W1	S1	S2	S3	S4	S5	S6	S7	S8	S9	E1	
2023/2/17		—	—	○	—	—	—	○	—	—	○	
2023/2/20				○	○	○	○	○	○			
2023/2/24					○	○	○	○	○			
2023/3/3	○		○	○	○		○	○	○	○		
2023/3/9				○	○		○	○	○	○		
2023/3/15		○	○		○		○	○	○	○	○	
2023/4/5							○		○	○		
2023/5/17		—	—		—	—	—		—	—		

○: アルゼンチンアリ検出 ■: 女王アリ確認 —: トラップ設置なし

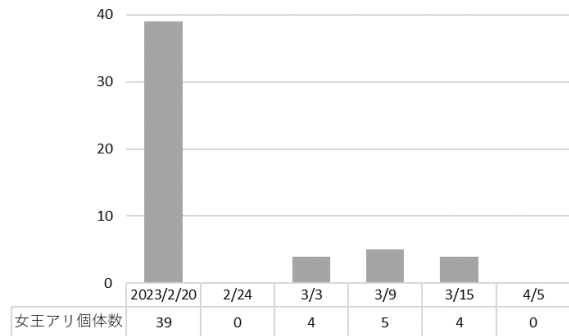


図1 捕殺した女王アリ個体数